

# 持続的な地域開発をめざして

ータンザニア・プロジェクトの経験から

I. プロジェクトの概要

II. 地域開発の実践

III. まとめ

(株) 地域計画連合

田村賢治

# I. プロジェクトの概要



# プロジェクトの紹介

名称：ソコイネ農業大学「地域開発センター」  
(SCSRD)

期間：1999~2004年(プロジェクト協力)  
2004~2006年(フォローアップ)  
(前史としてソコイネ農業大学と京都大学による研究協力)

目的：「地域開発センター」の確立  
持続的農村開発手法の検討(SUAメソッド)

C/P：ソコイネ農業大学(地域開発センター)

地域：ムビンガ県2村(A村・B村)、モロゴロ県2村

# ムビンガ・地域概況

- **標高**

2,000 ~ 1,000 m  
(A村=旧村) (B村=新村)

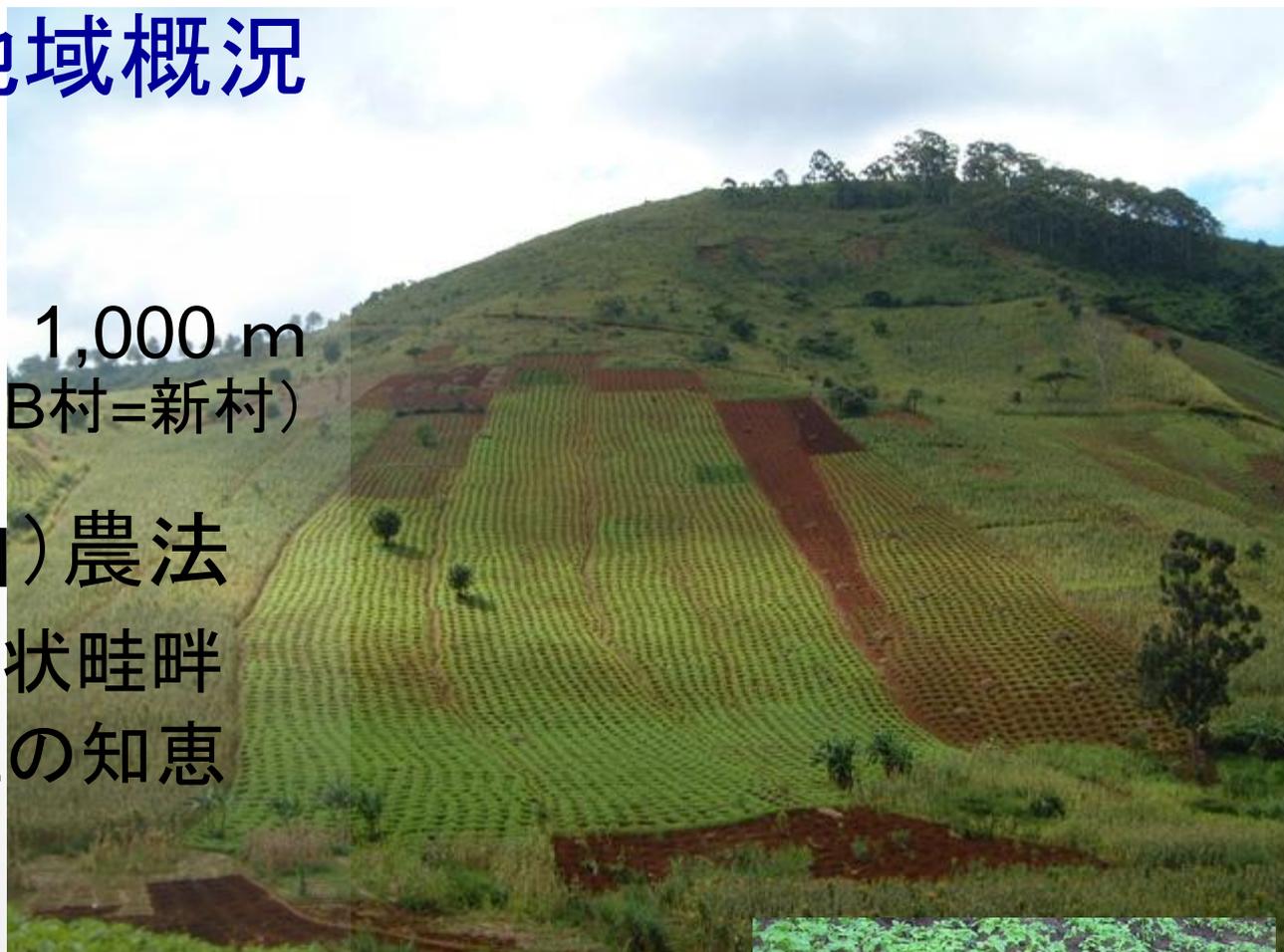
- **ンゴロ**(「穴」)農法

傾斜地に格子状畦畔  
土壌流亡防止の知恵

- **主作物**

コーヒー(換金作物)

トウモロコシ + 豆 + 小麦



ンゴロ

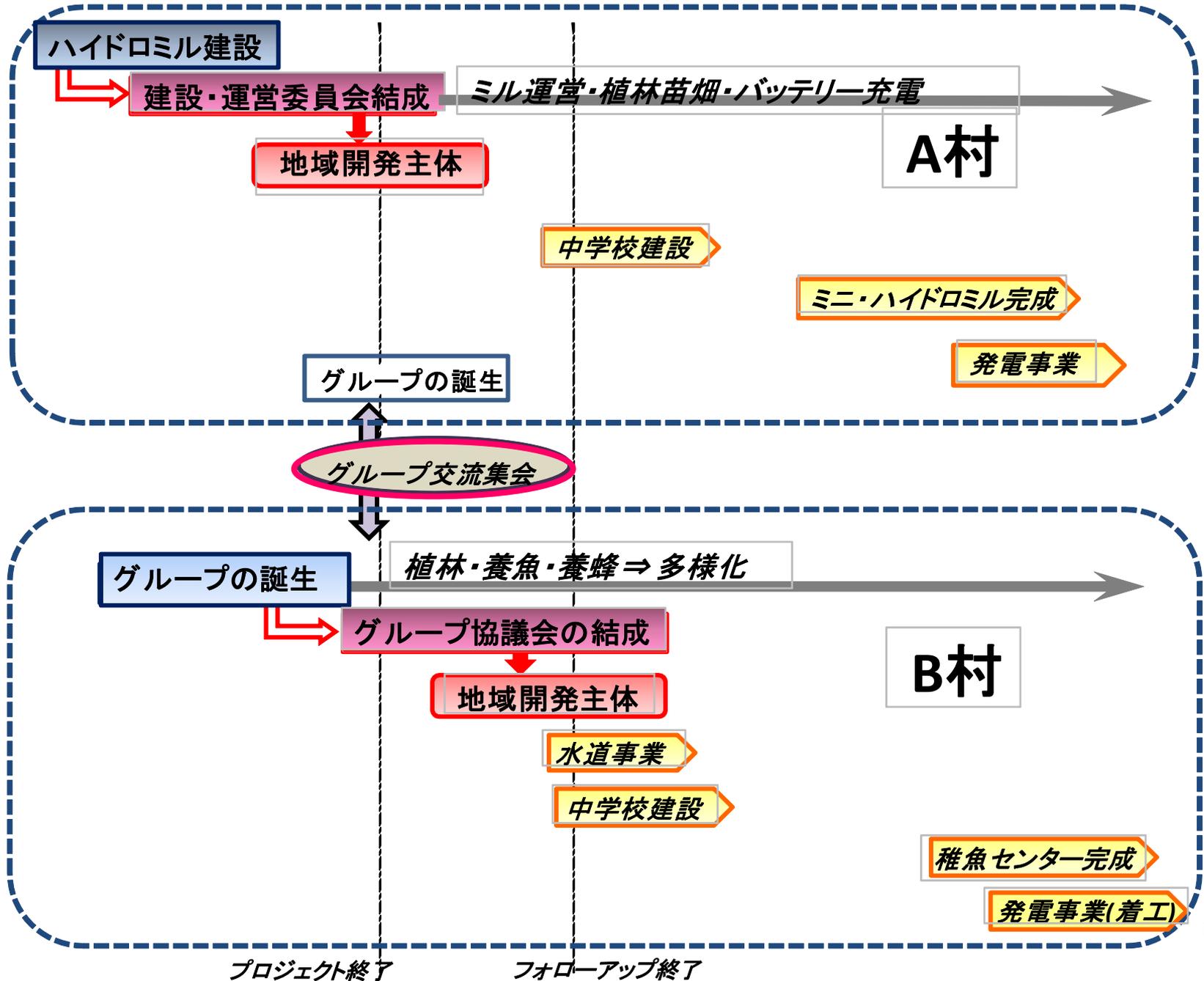


## II. 地域開発の実践

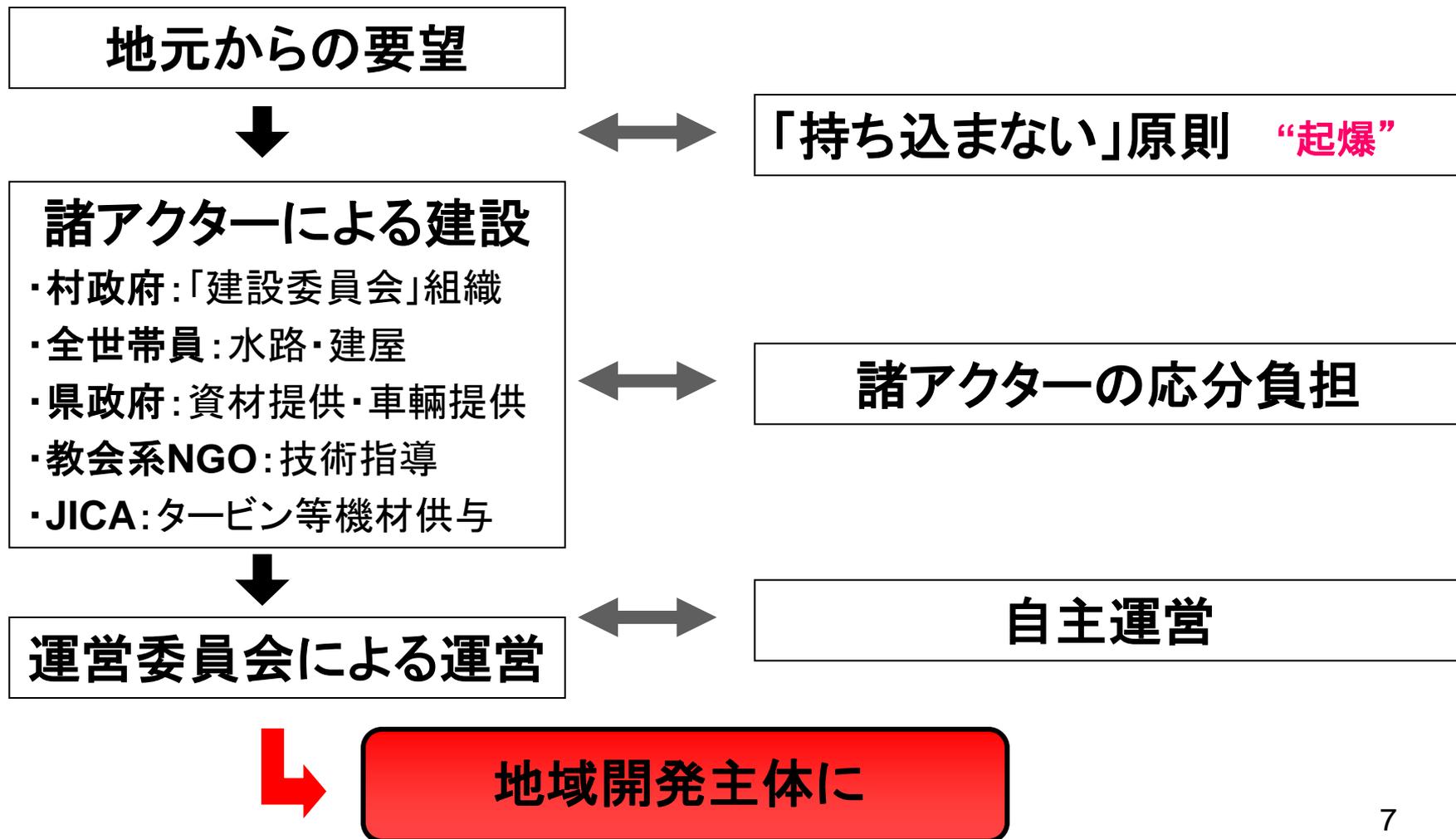


農民の経験交流

地域開発の歩み



# hidro mil 建設と「運営委員会(セング)」



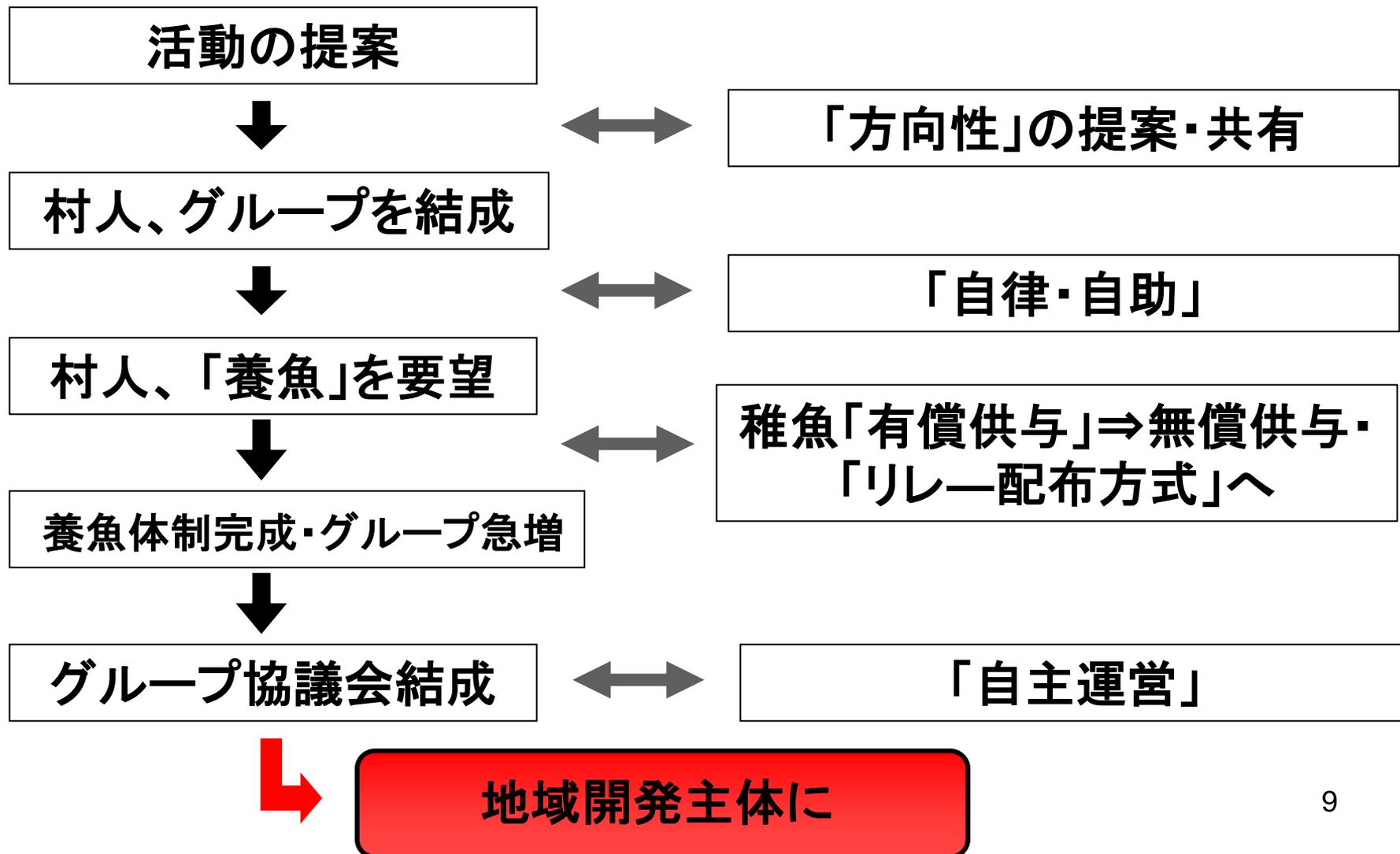
# ハイδροミル

A  
村



# 「グループ」の諸活動と「グループ協議会」

B  
村



# グループの活動 - 植林

B  
村



# グループの活動ー養蜂



# グループの活動ー養魚

B  
村



リレー式稚魚配布

布

+

魚網の共同利用



2004年= 1 池

2006年= 285 池

A  
村



交  
流  
集  
会



B  
村

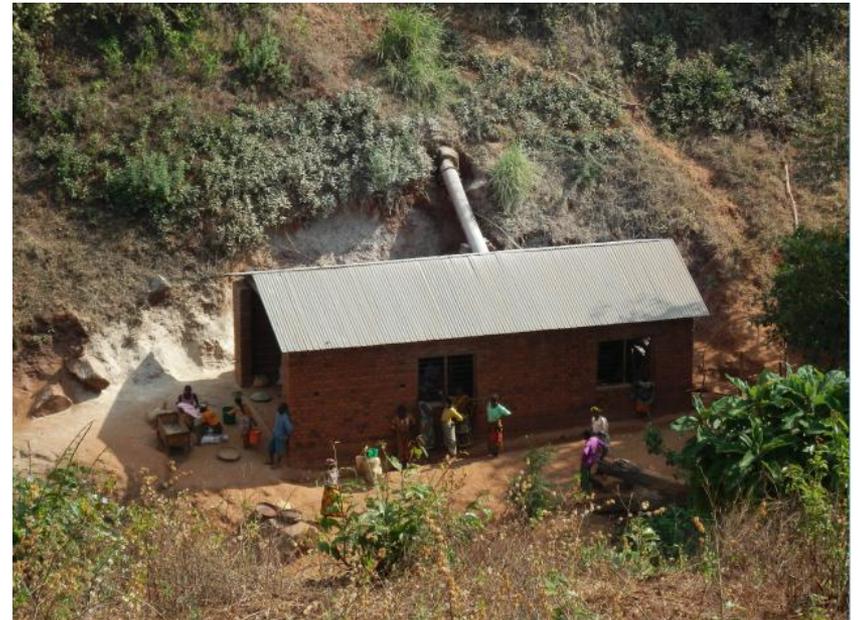


苗畑運営⇒植林



# ミニ hidroミルの建設

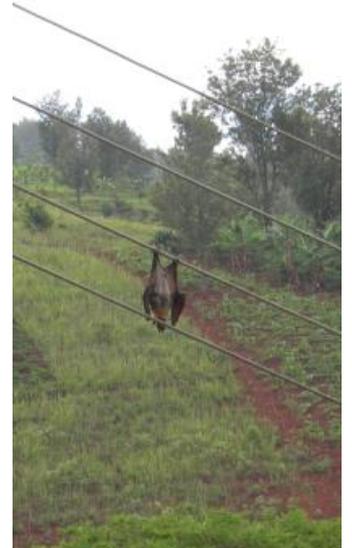
先行事例の見学



# hidro mil 的 活用

バッテリー充電

村の電化



A 村 「運営委員会」主導の事業展開



## 給水施設の敷設



協力隊員の支援

## 中学校建設



## 発電工事



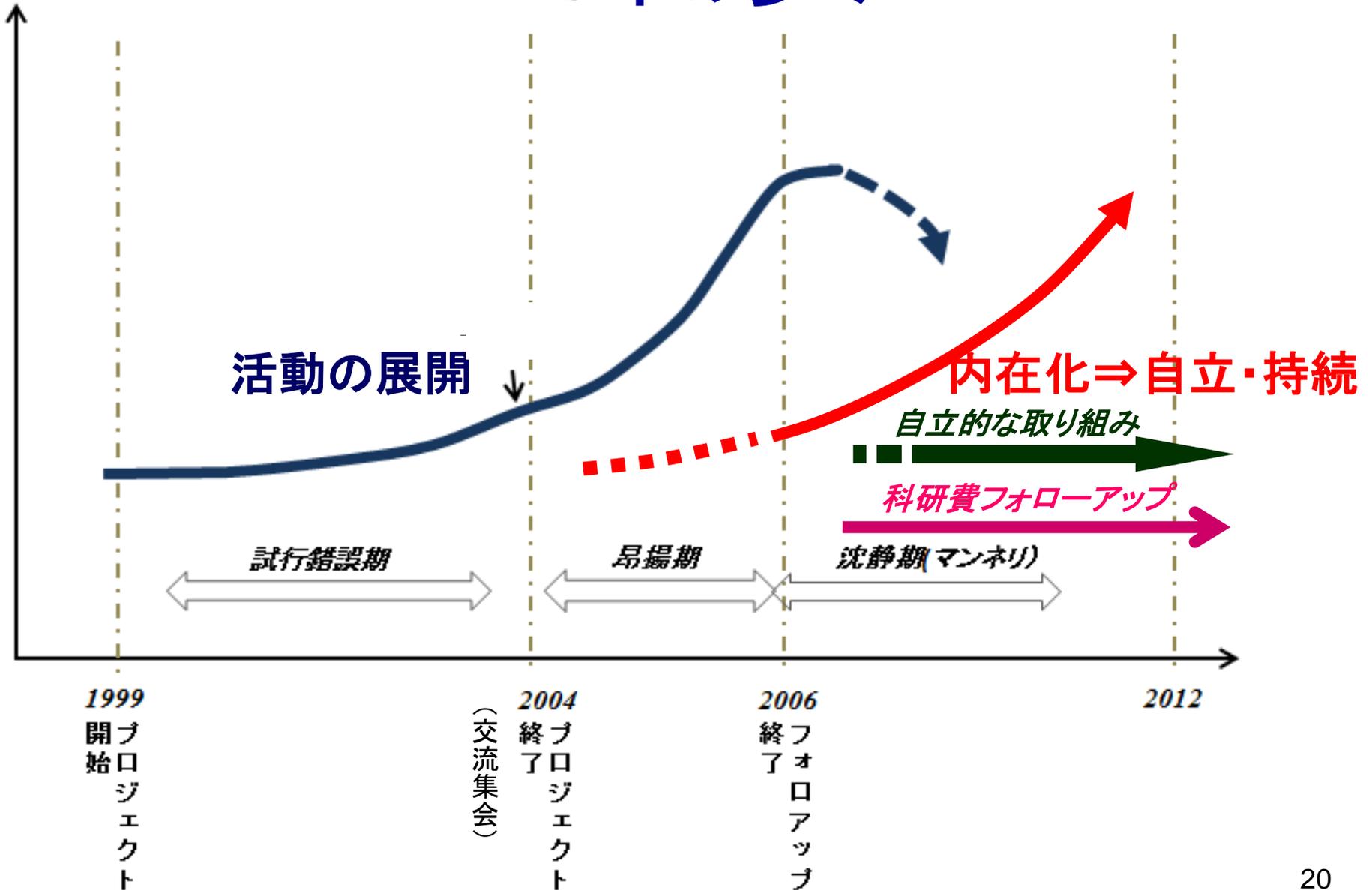
## 稚魚センター



# III まとめ



# 13年の歩み



# 総括 - 持続的地域開発

課題への  
自主的な  
取り組み

hidroミルの建設(諸アクター参加)

hidroミルの自主運営(セング)

ミニ・ hidroミルの自主建設

「グループ」結成→「グループ協議会」

養魚の展開(リレー式稚魚配布・魚網)

養蜂; 見学→伝統的(自前)養蜂箱

「理念」の共有(植林の重要性)

在来樹種の育苗・植林(多用途に着目)

経験の交換(交流集会・他村の支援)

基本原則

外から極力  
持ち込まない

地域資源

再発見・復元・活用

住民の  
知恵・経験に  
学ぶ

活動の内  
在地域開  
発主体の  
形成

**終わります**

